

愛媛国際観光港

SEA LINK SETOUCHI

～瀬戸内に浮かぶ新たな玄関口～

設計趣旨

現在、愛媛県には多くの観光客が訪れており、その交通手段としては空路・陸路が多数を占めている。空路についてはどの航路も令和五年度の利用者数を翌年の利用者数が上回っている。また陸路についても、ほとんどのインターチェンジで空路と同じような傾向が見られている。その一方で、フェリーをはじめとした海路は減便・廃止が行われているものも存在する。

しかし、松山一呉・広島便や東予一神戸・大阪便などの主要航路は利用者数が増加しており、現在も重要な交通機関として機能し続けている。さらに、近年は富裕層向けの大型クルーズ船の入港機会も増え、様々な面から船旅に注目が集まっている。

この建物はフェリーとクルーズ船の発着する港を統合し、従来と異なる新たな観光・交通拠点として再整備することを目的とした。

メインターミナルの折り重なるような屋根は穏やかな「瀬戸内の波」、三つに分かれた大きな屋根は心に残る「瀬戸内の島々」、それらを繋ぐ展望トラス梁は島々と波間をつなぐ「船」の役割を表している。瀬戸内海に広がる様々な情景を建築として視覚的に落とし込んだデザインとした。

交通拠点としての機能に加え、施設そのものも観光地となるように店舗や展望施設等を配置した。また、膜屋根を採用するなど環境に配慮した設計手法も取り入れ、持続性を持たせた点も本建築の特徴だ。愛媛県や瀬戸内の魅力を発信する次世代の交通・観光拠点となることを目指していきたい。

建設予定地



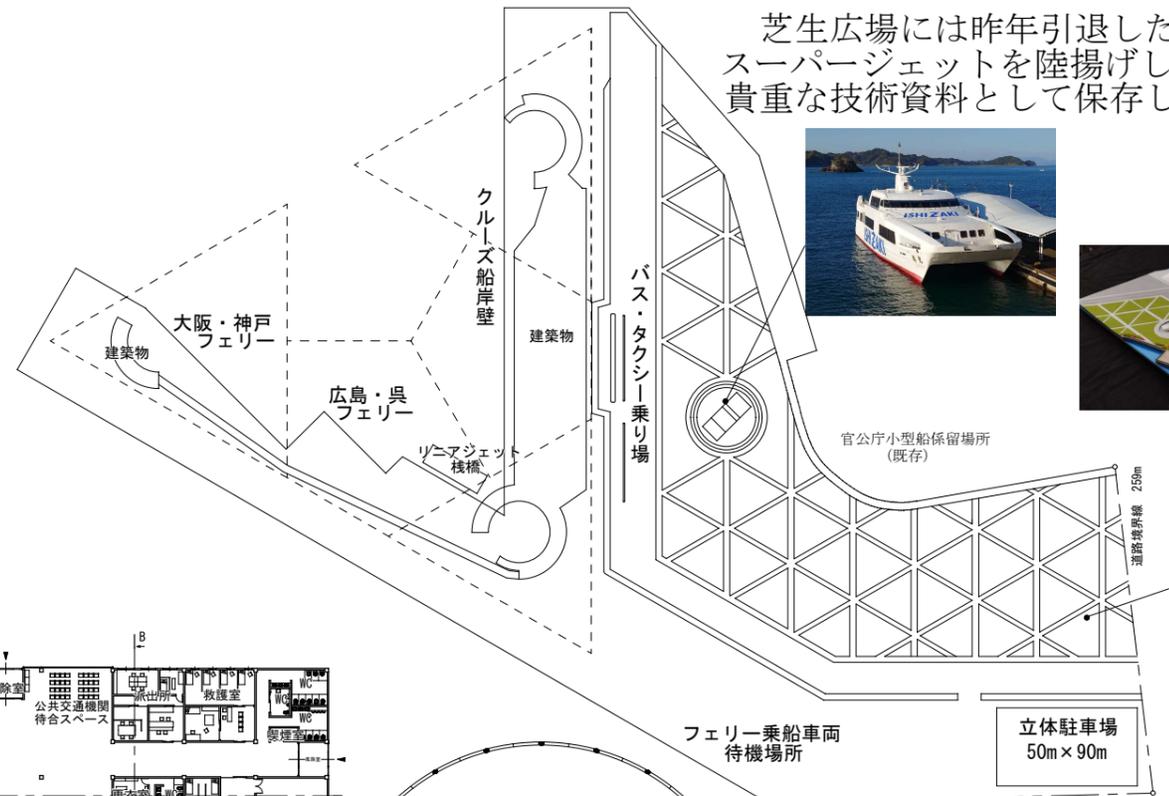
松山市三津浜地区
松山外港
第1ふ頭2号岸壁

古くから海運等で栄えた
港町で現在もクルーズ船等の
寄港地となっている。

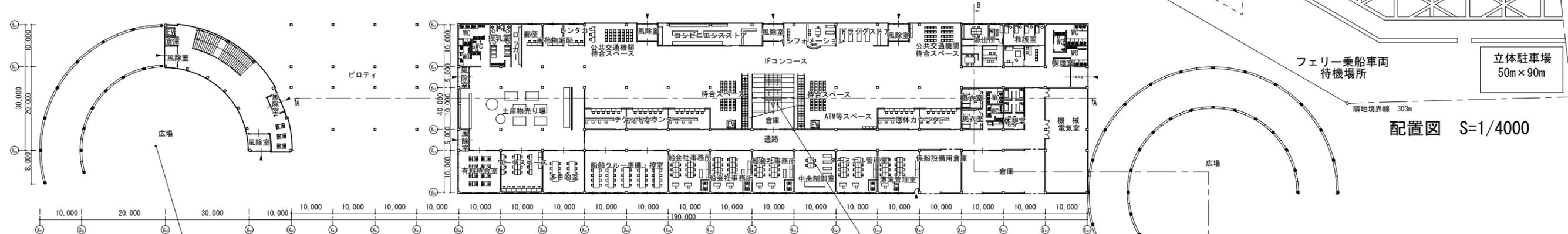
建築概要

構造形式	鉄骨造
最高高さ	24.209m
階数	3階建て
敷地面積	157,750㎡
建築面積	6641.88㎡
延床面積	12946.71㎡

芝生広場には昨年引退した
スーパージェットを陸揚げし、
貴重な技術資料として保存している。

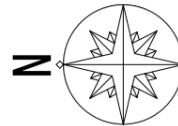
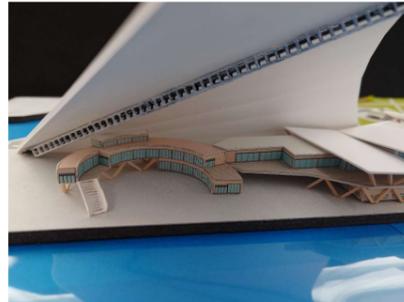


芝生広場は、
トラス構造を
モチーフとした
三角形で構成。

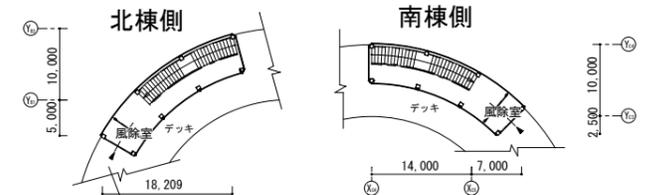
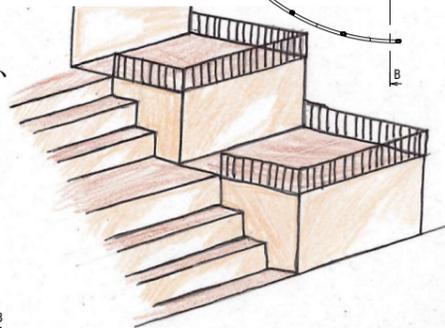


1階平面図 S=1/700

ターミナル両端には広場が
設けられている。
地域のフリーマーケットや
各種イベントが可能。

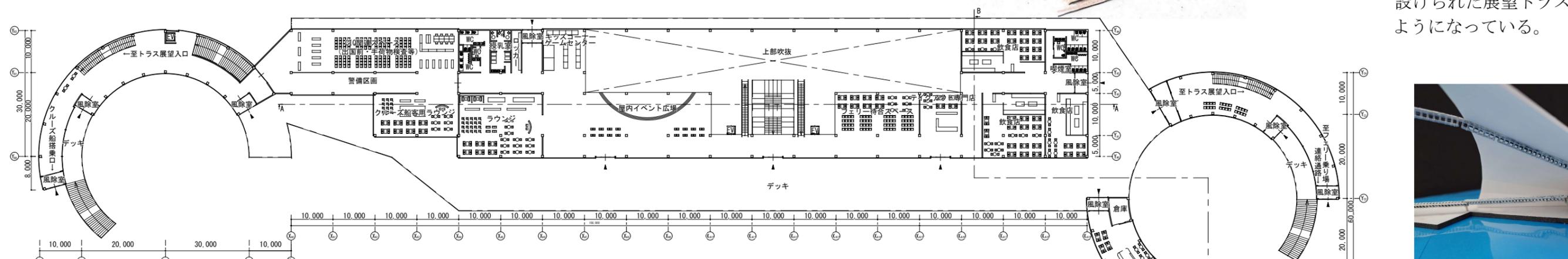


大階段の両端には、
人々が休憩できるように
段差を大きくした部分
を設けた。

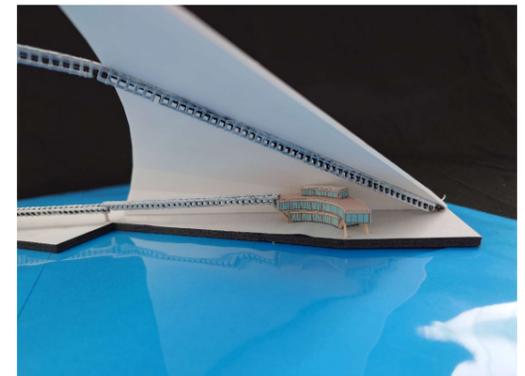


3階平面図 S=1/700

3階からは大屋根に沿うように
設けられた展望トラス梁にいける
ようになっている。



2階平面図 S=1/700



膜屋根のもたらす効果

①高い透光性能

膜構造の持つ高い透光性能は室内に解放感をもたらし、照明の使用を抑制する。また、夜間は照明の光を透し、美しい外観をもたらす。

②熱を反射

高い日射反射性能により、金属屋根と比較して9℃も表面温度を低下させられる。これにより平均放射温度も3℃ほど低下させられ、近年の温暖化に対応していく。



③災害に強い

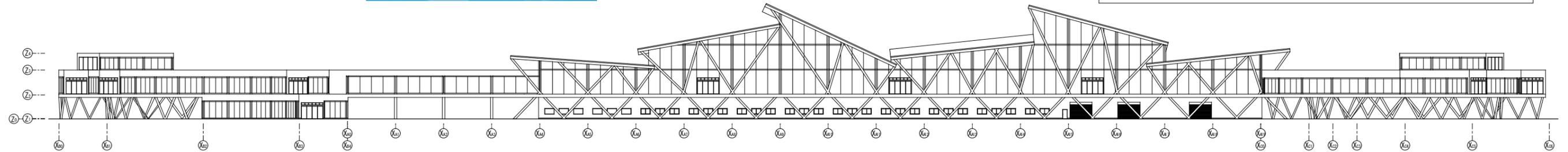
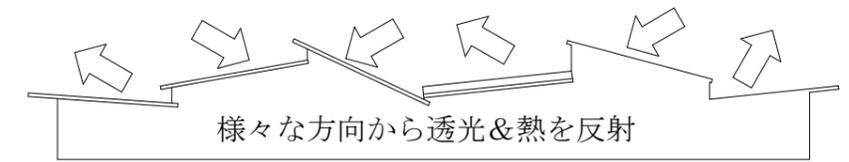
素材が軽量であるため、揺れに対する負荷が少なく、また、柔軟性も持つため地震に強い。

④高い耐久性

50年の耐久性を持つと言われており、実際に東京ドームの膜屋根は30年以上張り替えていない。

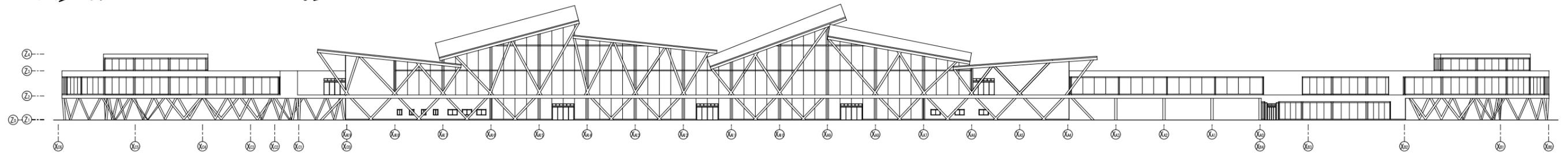
折り重なる屋根の意義

瀬戸内海の穏やかな波から着想を得たデザインである。
①透光性能と②熱反射性能の向上を図ることができる。

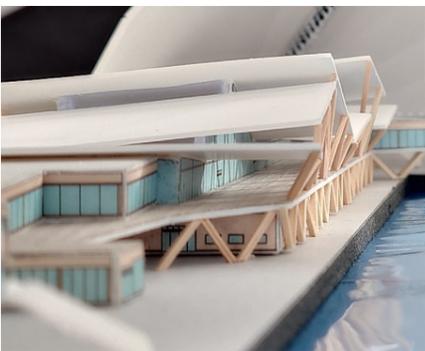


西側立面図 S=1/600

瀬戸内の波 ~膜屋根と形状の工夫~



東側立面図 S=1/600



西側（海側）には、全幅13mの広いデッキが設けられており、瀬戸内海の景観を楽しむことができる。

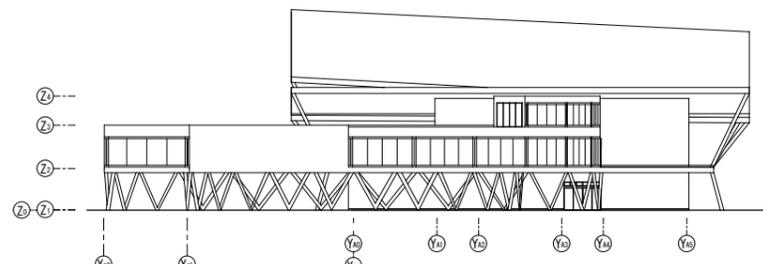
瀬戸内の島々

本建築で、最も特徴的な大屋根は瀬戸内の島々をモチーフに製作された。

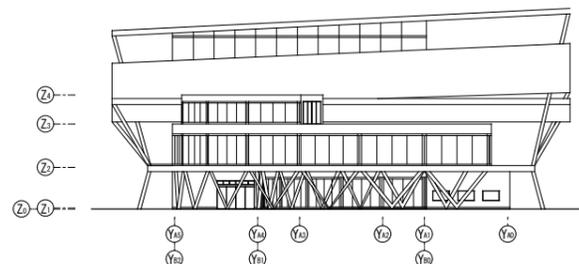
また、帆船の形状も参考にしており角度によって見え方の変わる、遊び心あるデザインとなった。

この屋根を設けることで、ターミナル両端の広場部分に注ぐ直射日光を防ぐことができる。

海側に対しては開かれたデザインになっており、入港してくる船舶の安全性を妨げないようになっている。



南側立面図 S=1/600



北側立面図 S=1/600



船、建物の両方を包み込むように作られている。
一辺の長さは150mを超える。



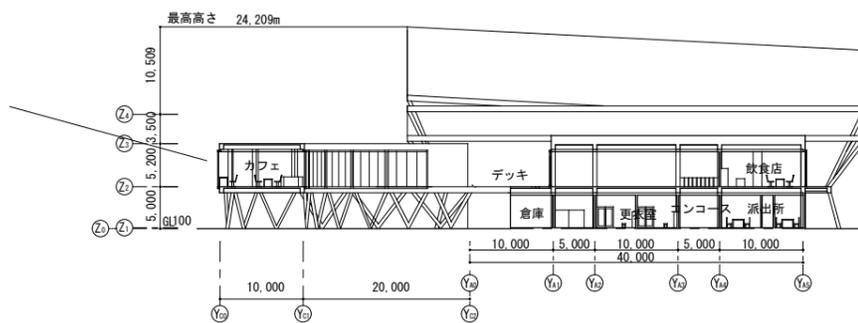
海の上のカフェとトラス

吹き抜けによる大空間
大規模な吹き抜けが設けられている。
膜屋根がもたらす、やわらかい日差しを
2階だけでなく、1階でも感じられる。

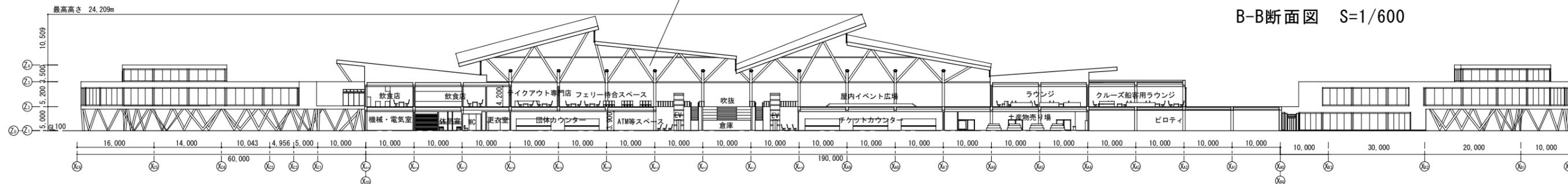


一部が海の上に持ち出される構造を持っている。
カウンター席や多人数席等幅広く対応しており、
船旅前後の優雅なひと時を過ごすことができる。
下部のトラスも、瀬戸内の波をイメージした。

内部骨格もトラスで
構成されている。

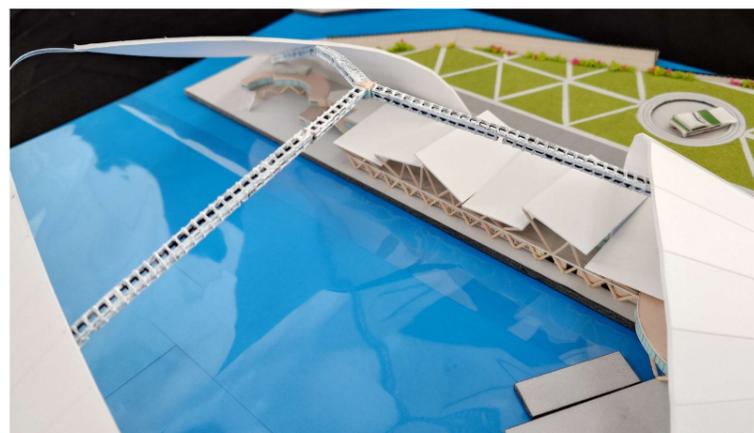


B-B断面図 S=1/600



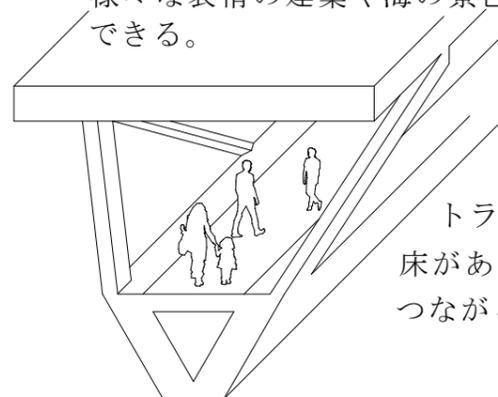
A-A断面図 S=1/600

船の役割 ~展望トラス梁~



大屋根の支えと兼用している展望トラス梁
が3方向から伸びている。

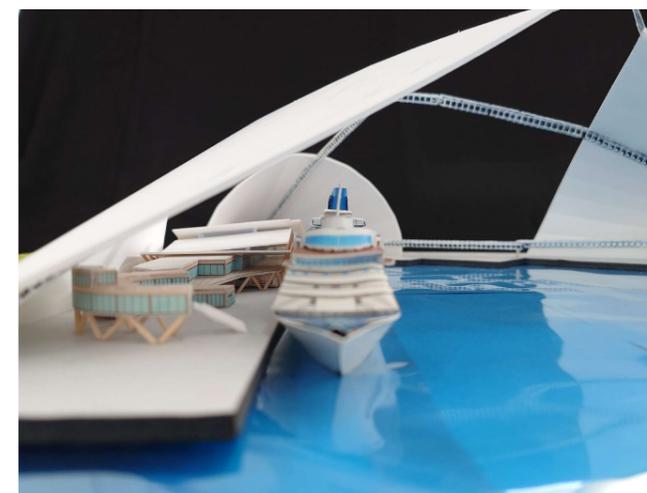
ターミナル両端の3階部分と、別棟になって
いるフェリー乗り場連絡通路端部の3階部分
から、中心にある展望室につながっており、
様々な表情の建築や海の景色を楽しむことが
できる。



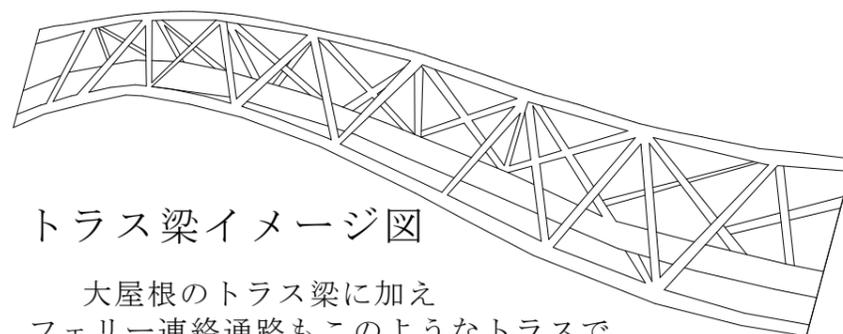
トラス内部はこのように
床があり、頂点の展望室に
つながる。



クルーズ船入港時には上のよう
な風景が見られる。



大屋根はクルーズ船の入港にも対応
できるように、に約60mの高さを持つ。
全長300m級の大型クルーズ船や、災害
時には海上自衛隊や海上保安庁の艦船
も入港できるようになっている。



トラス梁イメージ図

大屋根のトラス梁に加え
フェリー連絡通路もこのようなトラスで
構成される。

